

大谷吉継と 西軍の関ヶ原

7月23日(土)

9月4日(日)

開館時間 10時～17時

休館日 月曜日

入館料 300円 団体250円

(高校生以下無料)

※長浜市長浜城歴史博物館特別展「石田三成と西軍の関ヶ原合戦」の半券提示で入館料50円引き

大谷吉継と敦賀

大谷吉継は、秀吉への忠義と石田三成との友情に殉じた武将として知られていますが、敦賀城主としての吉継はどういったことを行ったのでしょうか。

豊臣秀吉のもとで奉行衆(石田三成、浅野長政などと同じ)の地位にあった吉継は、秀吉から敦賀の地を与えられ、天正17年(1589年)から慶長5年(1600年)までの約12年間、敦賀城主として敦賀を治めました。秀吉が吉継を敦賀に置いた理由は、天下統一が進む中で、次に目を向けた大陸に近く、北国からの物資の集散地(生産地から物資を集め、消費地へ送り出すところ)である敦賀を有能な家臣に掌握させるためでした。

吉継は、前領主から築城が始まっていた敦賀城を拡張、完成させ、現在の結城町と三島町一丁目の範囲に城を築きました。

吉継を知る、夏が来た

豊臣秀吉に仕え、関ヶ原の戦いで盟友・石田三成との堅い友情に殉じたといわれる敦賀城主・大谷吉継公。NHK大河ドラマ「真田丸」では、主人公・真田信繁に多大な影響を与えた人物として描かれています。今、吉継公に注目が集まる中、ゆかりの地・敦賀で特別展を開催します。

特別展では、大谷吉継の「関ヶ原の合戦」前後の言動を、残された資料から拾い集め、吉継の決断と戦略に迫ります。石田三成、徳川家康ともに吉継を味方に引き入れることを望んだと伝えられ、吉継は三成の挙兵には否定的であったともいいます。

そうした中で、吉継はなぜ最終的に三成に賛同したのか、どのようにして家康を敵に回した合戦に勝算を得ようとしたのか、そして吉継の戦いが次世代の武将たちにどのように映ったのかを四章構成で明らかにします。

築城にあわせて城下町の整備にも取り組み、現在の敦賀の区割りの基礎を作ったと考えられています。

吉継は京都の伏見城築城に使用する太閤板(秋田杉)の受け取り役としても指定され、敦賀は秋田から京都への中継地としての役割を担いました。大量の太閤板のほとんどが敦賀に荷揚げされ、当時の敦賀の活況につながりました。このことは、東北地方や蝦夷地(北海道)から越前・若狭を結ぶ日本海の一大物流ルートの確立という意味も持ち、江戸時代以降の敦賀の発展に大きな影響を与えました。

【展示構成】

- 第一章 大谷吉継の決断／吉継が西軍に選んだ理由を考える
 - 第二章 大谷吉継の戦略／「北陸の関ヶ原」とも呼ばれる前田軍との対戦など紹介
 - 第三章 大谷吉継の覚悟／関ヶ原合戦での吉継の言動から「覚悟」を想う
 - 第四章 関ヶ原合戦から大坂の陣へ／子息大谷大学の行方、真田信繁との絡みを紹介
- 【展示品】
『関ヶ原始末記』、『中川家文書』黒田如水書状など41点の資料を特別展示

お立ち寄りスポット

みなとつるが山車会館



敦賀城主・吉継公の功績を紹介するコーナーや敦賀まつりで山車巡行する吉継公の武者人形があります。

開館時間 10時～17時
休館日 月曜日(祝日の場合開館)、祝日の翌日、年末年始
入館料 300円、団体250円
(高校生以下無料)

※市立博物館との共通割引入館券有
問合せ先 みなとつるが山車会館
☎21・5570



▲菊池容齋筆「関ヶ原合戦図屏風」敦賀市立博物館蔵

特別展記念企画 対談「西軍の関ヶ原 ～三成と吉継の反省会～」



▲みっちゃん(左・石田三成をモデルにしたキャラクター)とよっしー(右・大谷吉継をモデルにしたキャラクター)

互角の兵、戦略、智略。にもかかわらずなぜ負けたのか。特別ゲストをお招きして関ヶ原合戦西軍(負け組)反省会を開きます。

■特別ゲスト

長浜市長浜城歴史博物館
館長 太田 浩司 氏

■ナビゲーター

敦賀市立博物館
館長 外岡 慎一郎

■日時 8月20日(土) 14時～

■会場 きらめきみなと館

■定員 200人(申込不要・先着順)

■共催 気比史学会

ギャラリートーク

館長による展示物の解説を行います。展示会を観覧するだけではわからない裏話などが聞けるかもしれませんよ。

■日時 7月30日(土)19時～

8月11日(木)10時～

8月28日(日)10時～

■会場 市立博物館 2階展示室

■定員 20人(申込不要・先着順)

■参加費 入館料

歴史紙芝居「愛と正義の大谷吉継」

学生団体 Tongood が大谷吉継公について紙芝居でわかりやすく解説します。

■日時 8月16日(火)13時30分～

■会場 市立博物館 3階講堂

■定員 50人(申込不要・先着順)

■参加費 入館料

問合せ先

敦賀市立博物館

☎25-7033 FAX47-6131

✉museum@ton21.ne.jp

題字：千葉半匡